

令和5年度昭和村教育委員会の点検・評価報告書 (令和4年度事業)

令和5年9月
昭和村教育委員会

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、教育委員会は、毎年度その教育行政事務の管理及び執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとしています。

昭和村教育委員会は、上記法律の規定に基づき、令和4年度の昭和村教育行政事務の管理及び執行状況について、このほど点検・評価を行ったのでここに報告書としてまとめたものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は「令和4年度昭和村教育委員会施策基本計画（令和4年4月7日策定）」を総合的指針とし、その重点的取り組みを施策の目標として掲げ実施した事業です。

3 点検・評価の方法

各事務事業を「事業評価シート」により教育委員会事務局で自己点検と評価を行い、次に、学識経験を有する者等による「昭和村教育行政外部評価委員」から最終的な評価をしていただきました。

(1) 昭和村教育行政外部評価委員

氏名	備考
植田 啓嗣	福島大学 人間発達文化学類 教職実践研究科 准教授
五十嵐 吉彦	特定非営利活動法人 苧麻倶楽部 理事長
涌井 一統	一般社団法人 昭和村観光協会 事務局長
舟木 秋広	下中津川区長
渡辺 文弘	昭和村PTA連絡協議会長

- ・ 会議の状況 令和5年7月31日開催 3名出席（2名欠席）

(2) 点検・評価基準

- ・ 次の、4段階評価とします。
A：十分達成 B：ほぼ達成 C：やや不十分 D：不十分

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の会議の開催状況

定例会 12回 臨時会 0回

(2) 議案の審議

開催月日	議案 番号	件名
4月7日	5	昭和村学校教育指導委員の委嘱について
	6	奨学生選考委員会委員の委嘱について
	7	昭和村社会教育委員の委嘱について
	8	昭和村文化財保護審議会委員の委嘱について
	9	昭和村スポーツ推進委員の委嘱について
	10	教育長職務代理者が教育長の権限に属する職務を行う場合における職務の委任等に関する規程の制定について
5月12日	11	昭和村公民館管理運営規則の一部を改正する規則
	12	令和3年度第13号補正予算要求について
	13	令和4年度第1号補正予算要求について
6月2日	14	教育長職務代理者の指定について
	15	昭和村学校教育指導委員の委嘱について
	16	昭和村いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	17	昭和村学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
	18	教育行政外部評価委員会委員の委嘱について
	19	就学援助費支給認定について
20	令和4年度第2号補正予算要求について	
7月6日		(議案なし)
7月27日	21	令和5年度使用小学校教科用図書採択について
	22	令和5年度使用中学校教科用図書採択について
	23	令和5年度使用学校教育法附則第9条の規程による絵本等の一般図書の採択について
9月1日	24	令和4年度第4号補正予算要求について
10月3日	25	教育長職務代理者の指名について
11月8日	26	昭和村学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
12月8日	27	令和4年度第8号補正予算要求について
1月12日		(議案なし)
2月2日	2	昭和村いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	3	令和5年度当初予算要求について
3月9日	4	管理職異動内申について

※ 令和5年議案第1号が欠番。

(3) 協議事項

開催月日	件名
4月7日	1 令和4年度教育委員会施策基本計画(案)について

	2 令和4年度福島県市町村教育委員会連絡協議会定期総会の開催について
5月12日	(協議なし)
6月2日	1 令和4年度両沼支会春季総会の書面表決について
7月6日	1 令和4年度福島県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会について 2 令和4年度教育委員・教育長研修会について
7月27日	1 令和4年度教育委員・教育長研修について 2 小学校訪問について 3 令和4年度ハタチの成人式について
9月1日	1 中学校学校訪問について
10月3日	1 令和4年度福島県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会について 2 令和5年度東北6県市町村教育委員会連合会第71回定例総会及び教育委員・教育長研修会の開催予定について 3 中学校学校訪問について
11月8日	1 令和5年度昭和小学校・昭和中学校入学予定者について 2 令和4年度昭和村総合教育会議議事録の公表について
12月8日	1 令和4年度昭和村総合教育会議議事録の公表について
1月12日	1 小中一貫推進計画について
2月2日	1 令和5年度福島県市町村教育委員会連絡協議会及び関係団体の事業計画(案)について
3月9日	1 昭和村教育振興基本計画について

(4) 報告事項

開催月日	件名
4月7日	1 令和4年度第1号補正予算要求について 2 令和4年度教育課程編成届について 3 教育委員会事務局事務分掌について 4 教職員異動について 5 教員宿舎等の入居状況について 6 スクールバス運行について
5月12日	(報告なし)
6月2日	1 教育委員会事務局事務分掌について
7月6日	1 夏休みの計画について 2 全会津中学校体育大会成績について
7月27日	(報告なし)
9月1日	1 令和3年度決算(教育費等)について 2 令和3年度昭和村教育委員会点検評価結果について

	3 教員住宅の建設について
10月3日	(報告なし)
11月8日	(報告なし)
12月8日	(報告なし)
1月12日	1 工事等の進捗状況について
2月2日	(報告なし)
3月9日	1 令和4年度第9号補正予算要求について

(5) 教育委員の学校・社会教育施設の訪問状況

施設名	実施日	訪問内容
昭和小学校	9月1日	授業参観及び学校運営説明・懇談
昭和中学校	11月8日	授業参観及び学校運営説明・懇談
昭和村公民館	随時	定例会の都度、教育行政全般の執行状況確認
学校給食センター	なし	

(6) 教育委員の研修会参加状況 (単位：人)

主催別	全国	東北	県	会津	両沼支会	村
教育委員	—	—	3	—	—	—
教育長	—	—	1	—	—	—

(7) 教育委員会事務局等の体制

教育長 栗村 良輔
 教育委員 本名 敬
 栗城 照美
 五十嵐 麻裕子 (教育長職務代理)
 五十嵐 吉弘
 事務局 (兼公民館)
 教育次長(兼公民館長・学校給食センター所長) 本名 千代
 主幹兼教育係長(兼学校給食センター給食係長) 星 憲一
 主査 渡辺 智子
 主事 五十嵐 正富
 社会教育指導員 鈴木 千江美

5 事業の評価結果

「事業評価シート」のとおり。

重点施策名	1 特色ある教育システムの構築		
	項目名	(1) 学校教育の充実	
	事業名	② 教職員の資質向上と小中連携教育の推進	
事業の目的	「教育は人なり」を基本に、子どもの人生に良い影響を与えられる優れた教職員の確保に努めると共に、学力向上推進事業等で全教職員と一緒に研修を深めることで資質向上を図る。また、小中連携教育の一層の推進に努め、中学校の専門教員による小学校への乗り入れ授業をはじめ、養護教諭の兼務や事務職員の共同連携等により、相互に補い合える体制をつくる。		
事業の内容	昭和村学力向上推進体制を組織し、主に次の事業を実施する。 1 知能テスト、ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査、QUテスト、humanテスト、NRT学力テストの実施に伴う調査分析 2 小中連携についての協議 3 小中一貫に関する研究会		
事業の対象	小中学校の教職員		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	学力テスト等経費
	87 千円	95 千円	
実績・成果 (数値等)	上記事業の内容1及び2については、予定どおり実施できた。 3については、先進事例視察研修と講師を招聘しての研究会を計画したが、コロナ禍等の理由により実施できなかった。		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分必要である	<input type="checkbox"/> おおむね必要である	<input type="checkbox"/> あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与している	<input type="checkbox"/> おおむね寄与している	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> おおむねできている	<input type="checkbox"/> できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input type="checkbox"/> 達成できている	<input type="checkbox"/> おおむね達成できている	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できていない	
内部評価	D	コメント	不十分
判定説明 及び考察	小中一貫（一貫校）に関する研究会の開催ができなかった。		
事業の 方向性	さらに重点化する	継続実施する	<input checked="" type="checkbox"/> 改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	D	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名	1 特色ある教育システムの構築		
	項目名	(1) 学校教育の充実	
	事業名	③ 郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成	
事業の目的	キャリア教育の一環として「総合的な学習の時間」等に、昭和村の特色ある産業（米や野菜、カスミノウ栽培等の農業、からむし織等の伝統産業）とその流通等について学ぶことで、郷土に愛着と誇りを持ち、村の将来の在り方についても考えることのできる人財を育てる。		
事業の内容	○昭和小学校 ・特産品のからむしと、稲作に関する学習を行う。 ○昭和中学校 ・村の主要な作物である宿根カスミノウ栽培の理解を深める学習を行う。		
事業の対象	小学3年生～6年生、中学生		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	講師謝礼、研修旅費
	179 千円	55 千円	
実績・成果 (数値等)	中学校の宿根カスミノウ栽培に関する学習では、小さな村であっても全国一の生産量を誇る産業があることを身をもって知ることができ、村への誇りと愛着を醸成することができている。		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない	
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	計画どおりに事業が執行できた。		
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名	1 特色ある教育システムの構築		
	項目名	(1) 学校教育の充実	
	事業名	④ ICTを活用した学力の向上	
事業の目的	将来ICTを活用して明るい未来を切り開く基本的な力を身に着けるため、プログラミング的思考力の育成をはじめ、パソコンやタブレット、電子黒板等を活用した授業を通して学力の向上を図ると共に、家庭でもタブレットや支援ソフトを活用して学習できるようにする。		
事業の内容	<p>小学校では、PCやタブレットを、調べ学習や協働学習、話し合い活動に活用する。また、文章作成やプレゼンソフトによる発表活動などを行う。</p> <p>中学校では、学習指導の道具として特にタブレットを利用した個別指導、休業中の学習に活用する。</p> <p>小、中教員に対しては、ICT支援員を活用し、学習指導の向上を図る。</p>		
事業の対象	小中学校の児童生徒、教職員		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	パソコンとタブレットPCのリース料、ICT教育支援業務委託料
	4,485 千円	5,903 千円	
実績・成果 (数値等)	<p>小学校、中学校それぞれが、情報教育の目標を策定し、情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の情報活用能力の育成と、創造的に学習する児童生徒の育成が図られてきている。</p> <p>また、ICT支援員による小、中学校教員への支援を年間45回行い、教員の資質向上と学習指導の向上が図られてきている。</p>		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
事業の 評価	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	高年齢の教員が多い現状ではあるが、ICT支援員のサポートもあり学習指導の向上が見られる。また、教員間での連携も図られてきている。		
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(1) 学校教育の充実		
事業名		⑤ 世界に通用する国際人を育てる		
事業の目的		ALTや中学校英語教諭等の活用を図って小学校段階から英語学習に主体的に取り組めるようにし、多様な価値観を受入れて豊かに自己表現できる、世界に通用する国際人を育てる。		
事業の内容		外国語活動では、ALT（外国語指導助手）の活用により、コミュニケーション活動の充実を図る。		
事業の対象		小中学校の児童生徒		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	ALTの報酬、共済費、車輛維持管理費
		4,335 千円	4,334 千円	
実績・成果 (数値等)		ALTを1名継続して雇用した。児童生徒への指導については、小中学校の教員からは好評価を受けている。 また、英語検定では中学生が4級に2人、5級に4人が合格した。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない		
内部評価		A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察		ALTについては、小中学校の児童生徒への指導のほか、村民対象の生涯学習講座「英会話教室」でも指導をして、交流が図られている。		
事業の 方向性		さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
		休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(1) 学校教育の充実		
事業名		⑥ 学校給食の充実と食習慣の育成		
事業の目的		食は体だけでなく、心にも影響を与え、免疫力の向上など病気を未然に防ぐ上でも極めて重要であるので、学校給食センターが提供する給食の更なる充実を図るとともに、食習慣の育成に努める。また、農業体験を積極的に行い、食への感謝の心を育てる。		
事業の内容		給食の提供については、栄養士及び調理員に対し、講習等に参加させ、食品安全衛生管理や調理技術の向上を図るとともに、学校給食センター設備の適正な維持管理に努める。 また、小中学校では学校給食指導計画に基づき、食事の重要性や食事マナー、食に携わる人たちへの感謝の気持ちを醸成する。		
事業の対象		小中学校の児童生徒		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	学校給食センター全体の運営経費
		17,900 千円	18,253 千円	
実績・成果 (数値等)		令和4年度の両沼学校給食研究協議会の講習会に調理員が参加できなかった。 施設については、調理器具(低放射ガス立体炊飯器とガスフライヤー)の更新を行った。 小中学校では計画に基づき給食指導が行われた。なお、小学校では令和4年度も水稻の栽培を通じた農業体験を実施した。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
達成できている	■ おおむね達成できている	達成できていない		
内部評価	B	コメント	ほぼ達成	
判定説明 及び考察	学校給食センターの調理員に対する研修の機会が確保できなかった。			
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	B	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(2) 青少年の健全育成		
事業名		① 情報モラル教育やメディアコントロール教育の推進		
事業の目的		子どもがSNSに振り回されることなく、高い倫理観や自制心を持って活用を図れるよう、関係機関と連携して、情報モラル教育やメディアコントロール教育を積極的に推進する。		
事業の内容		小学校では、道徳の教科において情報モラルの理解に関する授業を行う。 中学校では、個人情報や著作権、インターネットへの情報発信に関わる情報倫理の理解と実践を指導し、適切な判断や行動がとれる態度を養う。		
事業の対象		小中学校の児童生徒		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	
		0 千円	0 千円	
実績・成果 (数値等)		小中学校ともに児童生徒に対し年間5回のメディアコントロール週間を設け、家庭での取り組みを実施した。その結果、家族でスマホやタブレット等の使用ルールを決めるなど、メディアの上手な活用や生活習慣の乱れ防止につながった。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない		
内部評価	A	コメント	十分達成	
判定説明 及び考察	各家庭の理解の下、計画的に実施され成果を上げている。			
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(3) 安全安心な教育環境づくり		
事業名		① いじめ・不登校の未然防止		
事業の目的		いじめ・不登校の未然防止に努める。いじめについては「昭和村いじめ問題対策連絡協議会等設置条例」をふまえ、いじめを受けた側の気持ちに寄り添い、迅速かつ適切に対処する。また、不登校児に対しては、家庭訪問やオンライン学習等を通して学校とのつながりを保ちながら、生活・学習面の支援に努め、復帰に向けての望ましい環境づくりを行う。		
事業の内容		いじめに関しては、小中学校共に学校いじめ防止対策に基づき、QUテストや悩み事アンケートを実施し実態を把握する。 また、不登校児童生徒に関しては、支援計画シートを作成し、教職員全員で共有し、児童生徒や家庭への適切な働きかけと学習状況を把握し、再登校に向けての受け入れをすすめる。		
事業の対象		小中学校の児童生徒		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	ハイパーQUテスト経費
		34 千円	39 千円	
実績・成果 (数値等)		いじめに関しては、小中学校共に確認されていない。 不登校児童生徒は、令和4年度末で小学校が1人/27人、中学校が1人/10人。再登校への支援を行っているが解決には至っていない。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分必要である	<input type="checkbox"/> おおむね必要である	<input type="checkbox"/> あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与している	<input type="checkbox"/> おおむね寄与している	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> おおむねできている	<input type="checkbox"/> できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input type="checkbox"/> 達成できている	<input type="checkbox"/> おおむね達成できている	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できていない		
内部評価	D	コメント	不十分	
判定説明 及び考察	新たに不登校児童生徒は増えてはいないが、現在不登校の児童生徒の解消ができていない。「COCOLOプラン」にもあるように、学びたいと思った時に学べる環境をどのように整備していくかが課題である。			
事業の 方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 継続実施する	改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	D	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名	1 特色ある教育システムの構築		
	項目名 (3) 安全安心な教育環境づくり		
	事業名 ② 保健衛生環境の整備と児童生徒の生活習慣の確立		
事業の目的	新型コロナウイルスをはじめとする感染症に対する正しい理解と感染予防のための生活行動習慣を確立できるよう、保健衛生環境の整備に努める。児童生徒が衛生に気を配り、自他の健康安全に配慮しながら、同時に規則正しい生活、良い食と運動の習慣、ストレス解消等の生活習慣を確立することで免疫力を高め、予防しようとする心を養う。		
事業の内容	新型コロナウイルス感染症の予防対策として、換気のための機器を整備する。		
事業の対象	小中学校の児童生徒、教職員		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	小中学校の新型感染症対策費
	350 千円	454 千円	
実績・成果 (数値等)	効率的な換気のため、サーキュレーターを小学校と中学校にそれぞれ6台ずつ配備し、感染拡大を防止することができた。		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	十分必要である	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	おおむねできている	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input checked="" type="checkbox"/> 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない	
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	数人の児童生徒の感染は確認されたが学級閉鎖などの状態には至らなかった。		
事業の 方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(3) 安全安心な教育環境づくり		
事業名		③ 教員住宅(宿舍)の確保と維持管理及び新築		
事業の目的		村外から赴任する教職員が安心して村内に居住できるよう、教員住宅の確保と維持管理に努めると共に、新たな教員住宅の建設にも着手する。		
事業の内容		新築の具体的な建設計画を策定する。併せて、財源についても県等と協議を進める。また、他の宿舍についても維持修繕をして長寿命化を図る。		
事業の対象		小中学校の教職員		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	教員宿舍管理費全体
		441 千円	1,374 千円	
実績・成果 (数値等)		老朽化の著しい校長用宿舍2棟と一般教員用宿舍1棟を解体し、新たに1棟4世帯分の教員宿舍を建設することとし、財源として国の学校施設環境改善交付金について県教育委員会と協議を進め補助対象となることを確認した。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない		
内部評価		A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察		具体的な方針が決まるまで数年を要したが、令和5年度に、新築と既存施設解体の設計を行い、令和6年度に既存施設解体と新築工事を行うスケジュールを策定した。		
事業の 方向性		さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
		休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		1 特色ある教育システムの構築		
項目名		(3) 安全安心な教育環境づくり		
事業名		④ 魅力ある学校環境の提供		
事業の目的		学校施設の老朽化が進んでおり、大規模改修が必要な時期に来ているので、現在在籍している児童生徒と保護者に不利益が生じないよう改修に努めると共に、小中一貫校への移行も視野に入れながら、将来より魅力ある学校環境を提供できるよう、計画的に準備を進める。		
事業の内容		令和4年度の校舎修繕は、雪害及び経年劣化した中学校校舎の屋根及び体育館の屋根修繕を行う。 小中一貫校への移行については、年次計画を策定する。		
事業の対象		小中学校児童生徒、教職員		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	小、中学校それぞれの学校管理費の修繕料と工事請負費
		4,331 千円	6,120 千円	
実績・成果 (数値等)		中学校校舎と体育館の屋根修繕は、令和4年10月12日に発注したが、全国的な建設資材の確保が大幅に遅れたため、令和5年度に繰り越すこととなった。 小中一貫校への移行に関する年次計画は令和5年3月末に概要を作成した。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分必要である	<input type="checkbox"/> おおむね必要である	<input type="checkbox"/> あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与している	<input type="checkbox"/> おおむね寄与している	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> おおむねできている	<input type="checkbox"/> できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input type="checkbox"/> 達成できている	<input type="checkbox"/> おおむね達成できている	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できていない		
内部評価	C	コメント	やや不十分	
判定説明 及び考察	校舎修繕は、完成工期を令和5年3月から令和5年6月へ3ヶ月延長することとなった。 小中一貫校への移行については、令和5年度に先進事例の調査、令和6年度に準備委員会を設置し令和7年度まで検討を重ね、令和8年度には基本計画を策定する予定となった。			
事業の 方向性	さらに重点化する	<input checked="" type="checkbox"/> 継続実施する	改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	C	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		2 心地よく子どもを育てられる環境づくり		
項目名		(1) 特別支援教育の充実		
事業名		① 特別支援員による学習・生活支援		
事業の目的		近隣に通学できる特別支援学校や学級がない本村の実態を踏まえ、特別支援員が通常学級において学習・生活支援を行うことにより、資質能力を伸ばすことができるよう配慮する。		
事業の内容		昭和小学校に特別教育支援員を1名雇用し配置する。また、教育支援アドバイザーやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家の支援も効果的に活用する。		
事業の対象		小学校児童、教職員		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	昭和小学校の特別支援教育等支援員の報酬、手当、共済費
		3,331 千円	3,227 千円	
実績・成果 (数値等)		村雇用の特別支援教育等支援員は、年度途中で産休になったが、後任を確保し児童及びその保護者に対して支援を行うことができた。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない		
内部評価	A	コメント	十分達成	
判定説明 及び考察	現在は、村雇用の支援員を設置しているが、特に専門知識を有する者ではない。支援の必要な児童の資質・能力を伸ばすためには、今後、特別支援学級の開設も検討しなければならない。			
事業の 方向性	さらに重点化する	継続実施する	■ 改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		2 心地よく子どもを育てられる環境づくり	
項目名		(2) 子どもの居場所づくりの支援	
事業名		① 家庭教育に関する啓発活動と少年教室の充実	
事業の目的		講演会の開催や教育情報の発信等により、家庭教育に関する啓発活動を行うと共に、休日等に子ども達が保護者と一緒に有意義な体験活動に取り組めるよう、少年教室の充実を図る。	
事業の内容		<p>家庭教育の分野では昭和村PTA連絡協議会との共催で、昭和村の子どもを語る会を開催する。</p> <p>これまで毎年実施していた少年教室は、村の自然に親しみ、郷土を理解する活動に加えて、異世代との交流活動も取り入れる。</p>	
事業の対象		小学生及び保護者	
事業費		令和4年度決算	前年度決算額
		90 千円	28 千円
		少年教室講師謝礼、消耗品費	
実績・成果 (数値等)		<p>昭和村の子どもを語る会は、小中一貫校の事例講演会は32名の参加者があったが、児童生徒の保護者は非常に少なかった。</p> <p>少年教室は、延べ16回開催し、延べ203名が受講し、当初の目的は達成できた。</p>	
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分必要である	<input type="checkbox"/> おおむね必要である	<input type="checkbox"/> あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与している	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね寄与している	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> おおむねできている	<input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	<input type="checkbox"/> 達成できている	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できている	<input type="checkbox"/> 達成できていない
判定	C	コメント	やや不十分
判定説明 及び考察	<p>昭和村の子どもを語る会の保護者の参加が少なかったのは学校からの周知が不足していたからであり、保護者も他人事ではなく積極的に関わるよう努力が必要である。</p> <p>家庭教育の部分については、教育委員会や公民館だけのテーマとはせずに、行政の児童や保健担当部門と連携を検討する必要がある。</p>		
事業の 方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 継続実施する	<input checked="" type="checkbox"/> 改善見直しを検討する
	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する		

外部評価	C	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名	3 ウェルビーイングの確立		
	項目名	(1) 生涯学習の確立	
	事業名	① 生涯学習講座・千歳学級・少年教室の充実	
事業の目的	生涯学習講座、千歳学級、少年教室の充実を図る。可能なものについては老若男女の垣根を取り払い、村の宝であるお年寄りが原石である子ども達の教育に積極的に関わる機会も設けるなど、多様な集団の中で人間味のあるふれあいを大切にした活動を推進し、村民全体の文化・教育の質を高めると共に、健康長寿の村づくりにも資するようにする。		
事業の内容	<p>生涯学習講座は、英会話、フラダンス、苔玉作り、陶芸など様々な講座を企画し、村民の生涯学習への参加と意識を高める。</p> <p>千歳学級は、芸術鑑賞会や藍染め体験、デジタル講座など高齢者の様々な方面にわたる知識を深め、多様な趣味や生きがいを推進する。</p> <p>少年教室は、親子ハイキングやからむし引き体験など、ふるさとの自然に親しみ郷土を理解することや、村外にも活動の場を広げて様々なことを体験しながら学んでいく。</p>		
事業の対象	小学生から高齢者まで		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	講師謝礼、消耗品費
	406 千円	244 千円	
実績・成果 (数値等)	<p>生涯学習講座は年間18回、延べ117人が受講。千歳学級は年間12回、延べ110人が受講。少年教室は年間16回、延べ189人が受講した。</p> <p>それぞれの講座や教室では村内在住の特技を持った人を講師に迎え、世代を超えた村民同士の交流も深まった。また、村がすすめるデジタル変革に関してもスマホ講座を通じて理解が深まった。</p>		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
事業の 評価	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	計画どおり講座や教室の開催ができたが、次年度以降は、生涯学習講座ではさらに村民のニーズを取り入れ魅力ある事業を計画し参加者の満足度を向上させたい。少年教室においては家庭教育の部分を含めた事業も計画したい。		
事業の 方向性	さらに重点化する	継続実施する	■ 改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名	3 ウェルビーイングの確立		
	項目名	(1) 生涯学習の確立	
	事業名	② 村民参加による芸術・文化の振興	
事業の目的	地域に根ざした文化資源を大切に、村民が芸術を鑑賞したり発表したりする機会を多く設け、村民参加による芸術・文化の振興を図る。また、村民文化祭を開催し、小学校学習発表会・中学校和太鼓演奏、芸能発表会、作品展等を実施する。芸術鑑賞会では、演劇と音楽の公演を隔年で実施する。		
事業の内容	芸術鑑賞会を11月に、映画上映会を2月に開催する。 村民文化祭は、10月下旬の小中学校合同学習発表会から始まり、11月上旬の文化講演会までの期間、公民館を会場に開催する。 また、第25回会津西部巡回美術展を11月中旬から開催し、村民が様々な芸術文化に触れる機会と発表の場を設ける。		
事業の対象	全村民		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	報償費（講師謝礼）、負担金
	560 千円	718 千円	
実績・成果 (数値等)	・芸術鑑賞会：11月9日「わんぱく寄席」入船亭扇治。入場者50人。 ・村民文化祭：10月29日「小中学校合同学習発表会」 11月3日「村民文化祭」村民の作品展示、ステージ発表 11月12日「文化講演会」星 賢孝氏 ・会津西部巡回美術展：11月12日、13日 ・春休み映画上映会：3月24日～30日「峠・最後のサムライ」「劇場版・世界ネコ歩き」他		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
事業の 評価	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	本村の芸術文化事業も、少子高齢化で活動に関わる人が少なくなっている。生涯学習講座とうまく連動させ、芸術文化に関心を持つ人を増やすと共に村民のニーズに応えられるような環境を作っていく必要がある。		
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名		3 ウェルビーイングの確立		
項目名		(2) 生涯スポーツの振興		
事業名		① 村民がスポーツに親しめる場を設ける		
事業の目的		日頃忙しい勤労者層も、退勤後や休日等に仲間と共にスポーツに親しめる場を設けることにより、村民が生活に楽しみと生き甲斐を見出し、ストレスを解消して心身の健康づくりに進んで取り組めるようにする。		
事業の内容		○スポーツ推進委員活動の支援 ○スポーツ大会の開催・参加・協力 村民総合運動会／村民球技大会／家庭バレーボール協会長杯／県民スポーツ大会／県市町村対抗軟式野球大会／ふくしま駅伝 ○昭和村体育協会の育成		
事業の対象		全村民		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	・スポーツ推進員報酬 ・スポーツ大会経費 ・昭和村体育協会補助金
		1,029 千円	929 千円	
実績・成果 (数値等)		スポーツ推進委員10人は、積極的に村内外の各種大会運営に携わると共に、研修会に参加し指導技術の向上が図られたが、コロナ禍のため村民総合運動会など一部のスポーツ大会が中止になったため、スポーツを通じた交流や日頃の成果を発揮することが十分にできなかった。		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分必要である	<input type="checkbox"/> おおむね必要である	<input type="checkbox"/> あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与している	<input type="checkbox"/> おおむね寄与している	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> おおむねできている	<input type="checkbox"/> できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input type="checkbox"/> 達成できている	<input type="checkbox"/> おおむね達成できている	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できていない		
内部評価	D	コメント	不十分	
判定説明 及び考察	一部のスポーツ大会は中止となったが、愛好者団体はスポーツを通じた交流や健康づくりを行っていた。今後は、新型コロナの5類移行を踏まえ、以前のように多くの村民がスポーツに関心を持ち意欲的にスポーツができる環境とメニューについて、スポーツ推進員と検討していく。			
事業の 方向性	さらに重点化する	継続実施する	<input checked="" type="checkbox"/> 改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	D	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		3 ウェルビーイングの確立		
項目名		(2) 生涯スポーツの振興		
事業名		② 社会体育施設の適正管理と利用促進		
事業の目的		昭和村運動広場施設の保守点検と大規模改修工事を行う。また、日常的に敷地内の草刈り等、管理・運営と安全確保に努力することでより快適に使えるようにし、利用の促進を図る。		
事業の内容		令和4年度は昭和村運動広場内の健康増進施設（体育館）の改修工事を行う。また、運動広場の快適な利用と利用者増加のため、適切な除草などの施設管理を行う。		
事業の対象		全村民		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	・維持管理業務委託料 ・光熱水費 ・工事請負費
		21,224 千円	2,401 千円	
実績・成果 (数値等)		・健康増進施設改修工事(屋根塗装、外壁塗装、照明LED交換) 着工R4.7.28、竣工R4.12.28 ・運動広場全体の利用者推移(単位:人) 令和4…536(対前年△37)、令和3…573(△290)、令和2…863(△228)、 令和元…1091(△306)、平成30…1397(+672)		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		十分必要である	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		十分寄与している	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
<input checked="" type="checkbox"/> 達成できている	おおむね達成できている		達成できていない	
内部評価	A	コメント	十分達成	
判定説明 及び考察	施設の修繕や維持管理に関しては計画どおり実施できたが、少子高齢化の影響で年々施設の利用者が減少している。今後、大幅に増加することは見込めないため、施設の修繕については費用対効果を十分検討し、必要最小限にとどめるとともに、施設の今後のあり方を検討しなければならない。			
事業の 方向性	さらに重点化する	継続実施する	<input checked="" type="checkbox"/> 改善見直しを検討する	
	休止、廃止を検討する			

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		3 ウェルビーイングの確立		
項目名		(3) 地域文化の振興		
事業名		① 有形・無形の文化財の保護		
事業の目的		地域に住む文化人や有識者の協力を得て、昭和村の豊かな自然や地域に伝わる有形・無形の文化財の保護に努める。また、村民がそれらに直接触れる機会を意図的に設けることにより、そのかけがえのなさに気づき、積極的に守り伝えていこうとする姿勢の醸成につなげる。		
事業の内容		<p>フィールドワークを通じて自分の住む地域を知るきっかけを作るため、「昭和学講座（文化財講習会）」を実施する。また、これまでに受け入れた民具のと古文書を整理するとともに展示をする機会を設ける。</p> <p>村天然記念物で県自然環境保全地域の矢ノ原湿原については、湿原内の保護監視と観賞用スイレンの除去を行う。</p>		
事業の対象		全村民		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	・文化財保護審議委員報酬・昭和学講座講師謝礼・民具整理業務委託料・矢ノ原湿原保護監視業務委託
		827 千円	852 千円	
実績・成果 (数値等)		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和学講座は、フィールドワーク3回、座学3回、延べ83人受講した。 ・民具は、村民有志に委託して収蔵品のリスト化を行い、からむし工芸博物館で民具展を2月26日～3月31日まで開催した。 ・古文書整理は、和洋女子大学との連携による整理（9月と3月に6日間）を行い、村内有識者による古文書勉強会（7回）も開催した。 ・矢ノ原湿原の保全に関しては計画どおり実施できた。 		
事業の 評価		必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
		目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
		■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
内部評価		A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察		<p>昭和学講座(文化財講座)と古文書勉強会は、村内の有識者の協力を得て計画どおり行うことができた。また、民具及び古文書の整理も計画的に進められた。</p> <p>なお、収蔵している民具が膨大な量になり、現在の施設では手狭になってきたため、デジタル化するなどして、不要な物の処分も検討しなければならない。</p>		
事業の 方向性		さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
		休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名		3 ウェルビーイングの確立	
項目名		(4) 文化交流活動の推進	
事業名		① 文化・体育団体の活動支援	
事業の目的		文化協会や体育協会に対して補助金を支給したり事務連絡を支援したりするなど、各種団体が円滑に活動できるよう支援する。	
事業の内容		昭和村文化協会及び昭和村体育協会の支援として、総会等の開催、会計の管理、補助金の交付、加盟団体の事務支援などを行う。	
事業の対象		それぞれの協会加盟者	
事業費		令和4年度決算	前年度決算額
		741 千円	691 千円
		・昭和村文化協会補助金 ・昭和村体育協会補助金	
実績・成果 (数値等)		それぞれの団体に対しては計画どおりに支援は行ったが、協会に加盟している団体によっては、コロナ禍による活動休止などが継続された。	
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
達成できている	■ おおむね達成できている	達成できていない	
内部評価	B	コメント	ほぼ達成
判定説明 及び考察	協会に加盟する団体の中にはコロナ禍であることの他に、メンバーの高齢化により、活動を休止し、存続すらも危うくなっている団体がある。 財政面での支援の他に、新規加入者確保の支援についても課題となってきた。また、団体の活性化として、同じ規模の町村文化団体との意見交換を持つなどの工夫が大切だと思われる。		
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	B	評価委員意見	特になし
-------------	---	---------------	------

重点施策名	3 ウェルビーイングの確立		
	項目名	(5) 文化財の保護	
	事業名	① 国指定天然記念物「駒止湿原」の保護と活用	
事業の目的	国指定天然記念物「駒止湿原」の保護・活用については、南会津町とも連携し、駒止湿原保護協議会における湿原の管理と整備、駒止湿原保護監視員や駒止湿原案内の会との連携、土砂災害復旧対策、イノシシ、ニホンジカ被害、及び人間による違法行為対策等を行う。		
事業の内容	駒止湿原保護協議会の事業への参画とともに、「駒止湿原案内人の会」や「南会津町の湿原を守る会」が実施する事業への参画を行う。		
事業の対象	全村民		
事業費	令和4年度決算	前年度決算額	・駒止湿原保護協議会負担金 ・湿原監視業務委託料
	1,760 千円	1,641 千円	
実績・成果 (数値等)	<ul style="list-style-type: none"> ・湿原内の監視業務を駒止湿原案内の会に委託し、5月15日から10月31日までの170日間実施した。 ・外来植物の防除・除去は南会津町の湿原を守る会が6月に実施した。 ・獣による食害対策として、防鹿柵を5月中旬から10月中旬まで設置。イノシシ用のワイヤーメッシュ柵を6月上旬から11月上旬まで設置した。また、赤外線センサーカメラによるモニタリング調査でニホンジカとイノシシの生息数推定を行った。 		
事業の 評価	必要性（ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	おおむねできている	できていない
事業の 評価	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
内部評価	A	コメント	十分達成
判定説明 及び考察	<p>入山者は一時期より回復傾向である。イノシシやニホンジカは、防鹿柵やワイヤーメッシュ柵の設置に伴い、生息密度も低下し食害量と掘り返しも減少してきている。</p> <p>今後も、両町村で組織する協議会が中心となって、湿原の植物群落の保護と活用を図っていく。</p>		
事業の 方向性	さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
------	---	--------	------

重点施策名		3 ウェルビーイングの確立		
項目名		(6) 学校教育と生涯学習・社会教育の連携		
事業名		① 学校教育における地域人財と地域素材の活用		
事業の目的		「杉の子会」をはじめ、ボランティア団体等による小中学校児童・生徒との交流を図り、学校教育における地域人財と地域素材の活用に努める。		
事業の内容		昭和小学校 ・杉の子会(昔遊び等)・野尻ゆいクラブ(ピオトープ)・水稻農家(米作り)・からむし生産技術保存協会(からむし)・駒止湿原案内人の会(森林環境教育)・昭和スキークラブ(スキー学習) 昭和中学校 ・カミツ農家(花育)・そば生産農家(ふるさと学習)・駒止湿原案内人の会(森林学習)		
事業の対象		小中学校児童生徒		
事業費		令和4年度決算	前年度決算額	・講師謝礼
		133 千円	85 千円	
実績・成果 (数値等)		昭和小学校 ・杉の子会(昔遊び等)6回・野尻ゆいクラブ(ピオトープ)1回・水稻農家(米作り)3回・からむし生産技術保存協会(からむし)1回・駒止湿原案内人の会(森林環境教育)1回・昭和スキークラブ(スキー学習)2回 昭和中学校 ・カミツ農家(花育)6回・そば生産農家(ふるさと学習)3回・駒止湿原案内人の会(森林学習)1回 両校とも、計画どおり地域ボランティアの協力を得て学習を行った。保護者からの評価も高い。		
事業の 評価		必要性(ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
		■ 十分必要である	おおむね必要である	あまり必要でない
		有効性(施策や運営方針等、目的の実現に寄与しているか。)		
		■ 十分寄与している	おおむね寄与している	あまり寄与していない
		経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
		■ 十分できている	おおむねできている	できていない
内部評価		目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
		■ 達成できている	おおむね達成できている	達成できていない
判定説明 及び考察		地域と学校の連携により、児童生徒が昭和村を愛し誇りを持つことの醸成につながっている。なお、地域のボランティアも高齢化していることから、社会教育部門と連携しボランティア登録者の新たな確保も検討しなければならない。		
事業の 方向性		さらに重点化する	■ 継続実施する	改善見直しを検討する
		休止、廃止を検討する		

外部評価	A	評価委員意見	特になし
-------------	----------	---------------	-------------